

2009 年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロング・ディスタンス競技部門
報 告 書



期日	2009(平成21)年11月21日(土曜日)、22日(日曜日)
場所	栃木県矢板市
主催	日本学生オリエンテーリング連盟
主管	2007年度日本学生オリエンテーリング選手権大会実行委員会 ロング・ディスタンス競技部門 有限会社ジェネシスマッピング
後援	矢板市、矢板市教育委員会、栃木県オリエンテーリング協会
協力	日本旅行、NPO法人トレイル・オリエンテーリング協会 城の湯温泉センター

ご挨拶



どんよりと曇った寒い1日でしたが、皆さんのインカレロングはどんなだったのでしょうか。男女選手権とも、まるでミドルのように2分程度に2位から6位までが入るといふまれに見る接戦で、走る方も見る方も熱くなった1日でした。優勝には届かなかったものの、名古屋大と椋山女学園の東海コンビの選手層の厚さも目立っていました。また、女子選手権では高野選手が、私の記憶が確かなら、インカレ史上初の親子での制覇を成し遂げてくれました。初回の頃からインカレに関わってきた人間にとって、この記録は感慨深いものがあります。なんといっても30年余りに渡って続けてこられたからこそこの記録だと思います。今回のインカレロングの開催が危ぶまれていたことを考えると、天が与えたご褒美のようなものかもしれません。来年度のインカレロングは、大阪OLCの35周年記念大会とのコラボになります。地方では最早、はっきり言って単独でのインカレ開催は困難です。言葉は悪いですが、どんな手を使ってもインカレ開催を続けるという強い意志こそがインカレ、そして日本のオリエンテーリングの未来を明るくするものだと思います。

最後になりましたが、危機的状況の中、無事開催にこぎ着けてくれた実行委員会関係者の方々に感謝します。参加者の皆さんの中にはご不満な点もあったかと思いますが、お許しいただければ幸いです。また、地元関係者の皆様には、毎度のことながら、多大なるご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございました。主催者の学連を代表して、改めて御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟
会長 河合 利幸



矢板での熱い戦い、インカレロングからは4ヶ月が経とうとしています。この文章を書いているのが3月6日、つまり1週間後にはインカレミドルを迎える訳ですから、月日の流れる早さに驚かされます。

さて、私事で恐縮ですが、最近「批判と非難の違い」について教わりました。辞書によると批判は「物事を評価、誤りを指摘し、正すべき点を論じること」とあり、非難は「欠点や過失などを責め咎めること」とあります。

今回のロングを非難することは簡単です。プログラム発行の遅れ、デフのミスなど責め咎める点は確かにあるでしょう。では批判するのは簡単でしょうか。物事を評価するためには背景を理解している必要があるのではないのでしょうか。

来年度のインカレロングは大阪OLCの大会と共催という形になる予定です。共催に至った背景はいくつか挙げられるでしょうが、根底には“インカレの継続性”——つまり、形を変えどもインカレを絶やしてはならないという意識があります。その意識が広く浸透すれば、10年先、20年先も全国から学生が集まり、シード選手紹介で笑ったり、必死に走ったり、なかなか帰ってこない仲間を待ち続けたり、皆と一緒に表彰台前で写真を撮るという「今と変わらない」インカレが続いていることでしょう。インカレの主管は実行委員会ですが、主催は私たち学生ということを忘れないください。

最後となりましたが、お忙しい準備に携わって頂いた実行委員とその関係者の皆様には学生を代表して厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

日本学生オリエンテーリング連盟
幹事長 佐藤 俊



こうして、今年度の学生オリエンテーリング界の最大のお祭りである春インカレ（ミドル&リレー）の開会式の日に、秋の祭典であるインカレロングの報告書をみなさんのお手元に無事お届けすることができたこととなりました。思えばあの激戦も昨日のことのようですが、その間私にとっては、また新しい地図を1枚丸ごと一人でバカ丁寧に作り上げた期間でもあります。特に今年は雪の降る日が例年になく多く、つらい毎日でした。しかし、このつらい準備期間が、オリエンテーリングの学生チャンピオンを決める一瞬の輝きのためのものであると思えば報われます。勝者だけでなく、勝つことを目指して切磋琢磨するあの熱く美しい輝きを放つ日のための準備だと思えば、また頑張ろうという気になります。大会の地図を作るだけでなく、日頃の鍛錬でも、合宿の地図提供などを通じて、全国万遍なく頑張っている人たちに声もかけてきました。

その晴れ舞台がまたやってきます。またどんな熱い闘いが繰り広げられるのかと思うと自分も胸が躍ります。

こんな生活がとうとう今年で30年目になってしまいました。さすがにこれだけ長くやっているのと、人との繋がり地区との繋がりにおいても財産をもっています。今回の開催危機に際しても、矢板でならなんとか無理してでも可能だと判断したのは、地図の準備や運営の人材の問題だけでなく、極めて短期間の準備でも、地元渉外の問題でお互いに勝手知った部分、ツアーで通ってしまう部分で開催まで何とかこぎつけることができるかと判断した部分が極めて大きいものでした。過去にこの地の渉外でつまづいたことも交渉を何度も積み重ねることによって、それは大きな財産になっているということです。

昨年のインカレロングの報告書でも触れられたことですが、運営の人材難、疲弊も厳然たる問題でした。無茶を承知で行った分、疲弊の問題も厳しく指摘されることでしょう。しかしそれでもインカレは何としてでも開催しなければいけない、インカレが終わってしまえば、この国におけるこのスポーツが終わってしまう、その思いに駆られた方が強かった、というのが紛れもない気持ちです。そして、あの熱い日がまた訪れれば人が入れ替わっても、またその日が来るように頑張ろうと思う、それがインカレの継続性だと思います。

インカレの灯を絶やさなかったことに貢献してくれたすべての人、そして矢板市の方々に深く感謝致します。ありがとうございました。また強引な部分、無茶な部分で色々迷惑、不都合があった部分お詫びいたします。（配布ディスクリプションの不整合は、弁解の余地のないミスでした。申し訳ありません。本報告書ではこの部分も正しいものに再編集して掲載しています）

2009 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロング・ディスタンス競技部門実行委員長 山川 克則

役員一覧

◆インカレロング実行委員長

山川克則

◆インカレロングコースプランナ

大西康平

◆運営役員

大西康平・土井慶紀・高橋元気・井上博人・森澤寿里・中山史野・後藤俊介・渡辺悠介・岡崎智也・小鷺宣也・小松田成幸・立川洋・大井恵介・関谷茂樹・的場洋輔・齋藤祐也・今井直樹・千葉妙・稲垣孝宣・木村佳司・上田泰正

◆インカレロング イベントアドバイザー

櫻本信一郎

◆インカレロング裁定委員

入谷健元（京都大卒）、山口尚宏（筑波大卒）、朴峠周子（日本女子大卒）

◆トレイル・オリエンテーリング競技責任者

山口拓也

◆トレイル・オリエンテーリング運営責任者

田中博

◆トレイル・オリエンテーリング コースプランナ

高田弘樹

◆トレイル・オリエンテーリング コントローラ

児玉拓

◆トレイル・オリエンテーリング運営役員

高田弘樹・上野山禎造・大山佳祐・白石哲男・高村卓・田中洋子・中山勝・山口征矢

日本学生オリエンテーリング選手権大会スタートリスト

WE (女子選手権)				ME (男子選手権)							
10:01	001	佐久間 風花	椋山女学園大学 3	11:17	039	酒井 暁子	岩手大学 2	11:04	075	大月 隆寛	静岡大学 3
10:03	002	大沼 由佳	東北大学 2	11:19	040	後藤 梨恵	椋山女学園大学 2	11:06	076	福田雄希	京都大学 2
10:05	003	都築 愛美	椋山女学園大学 3	11:21	041	浅川 里佳子	実践女子大学 2	11:08	077	更科裕介	新潟大学 4
10:07	004	堀 文音	奈良女子大学 4	11:23	042	★ 柴田 彩名	椋山女学園大学 3	11:10	078	水木 啓介	早稲田大学 4
10:09	005	三輪 友里花	立命館大学 4					11:12	079	★ 山上 大智	東京大学 3
10:11	006	小玉 千晴	椋山女学園大学 2					11:14	080	中井 智規	東北大学 2
10:13	007	春名 敦子	お茶の水女子大学 2					11:16	081	古谷 嵩	東京工業大学 4
10:15	008	佐野 まどか	東北大学 2					11:18	082	小澤宏紀	名古屋大学 3
10:17	009	永倉 由美子	立教大学 2					11:20	083	★ 片岡裕太郎	名古屋大学 4
10:19	010	近藤 がさ	椋山女学園大学 2					11:22	084	佐藤 広志	岩手大学 2
10:21	011	江村 香里	新潟大学 2					11:24	085	山本 哲也	静岡大学 3
10:23	012	寺岡 倫子	獨協大学 3					11:26	086	小山博之	新潟大学 2
10:25	013	阿久津 美里	東京農工大学 4					11:28	087	★ 三森 創一郎	東北大学 3
10:27	014	常住 紗織	筑波大学 4					11:30	088	太田 瑛佑	早稲田大学 2
10:29	015	水野 日香里	椋山女学園大学 3					11:32	089	佐藤 悠太	東北大学 3
10:31	016	渡辺 文子	実践女子大学 2					11:34	090	田邊 拓也	東北大学 2
10:33	017	花井 理沙	椋山女学園大学 4					11:36	091	★ 立川悠平	新潟大学 2
10:35	018	★ 本間 理紗	東北大学 3					11:38	092	伊藤 瑛悟	北海道大学 4
10:37	019	山本 紗穂里	筑波大学 3					11:40	093	横井 智哉	慶應義塾大学 3
10:39	020	水原 真実	岩手大学 1					11:42	094	吉谷 浩平	東北大学 1
10:41	021	竹之内 香	宮城学院女子大学 4					11:44	095	★ 林真一	名古屋大学 4
10:43	022	★ 高野 美春	十文字学園女子大学 3					11:46	096	松矢 将太郎	京都大学 3
10:45	023	田村 蓉子	東京工業大学 2					11:48	097	大木 孝	東京大学 3
10:47	024	長田 千佳子	椋山女学園大学 2					11:50	098	久保貴大	新潟大学 3
10:49	025	太田 夏美	千葉大学 3					11:52	099	★ 大橋 悠輔	東北大学 4
10:51	026	★ 鈴木 聡子	東北大学 4					11:54	100	古澤 誠実朗	千葉大学 4
10:53	027	大友 沙織	宮城学院女子大学 4					11:56	101	岡本 将志	早稲田大学 3
10:55	028	稲岡 奈々	日本女子大学 4					11:58	102	小林 遼	東京大学 3
10:57	029	江口 沙綾	岩手大学 2					12:00	103	★ 田中 裕也	東京大学 4
10:59	030	★ 新井 宏美	新潟大学 3								
11:01	031	谷口 美貴	大阪大学 4								
11:03	032	根本 真巳	岩手大学 4								
11:05	033	高橋 愛衣	金沢大学 3								
11:07	034	★ 後藤 未妃	宮城学院女子大学 4								
11:09	035	田代 祐香里	日本女子大学 3								
11:11	036	若山 亜美里	静岡大学 3								
11:13	037	菊池 ひかる	宮城学院女子大学 2								
11:15	038	★ 江幡 禎子	東北大学 4								

★はシード選手

選手権クラス成績表

WUE - 6.1km ↑ 215m											
順位	氏名	時間	学校名	学年	順位	氏名	時間	学校名	学年	順位	氏名
1	高野 美春	1:01:53	十文字学園女子大学 3		36	森森 祐耶	1:39:33	静岡大学 4		35	沢厚太郎
2	山本 紗穂里	1:08:06	筑波大学 3		37	戸田 瑛	1:42:26	東北大学 3		36	藤森 祐耶
3	田村 蓉子	1:08:16	東京工業大学 2		38	伴毅	1:42:29	京都大学 2		37	戸田 瑛
4	星野 智子	1:08:25	津田塾大学 2		39	福田雄希	1:43:45	京都大学 2		38	伴毅
5	柴田 彩名	1:08:55	椋山女学園大学 3		40	渡辺拓也	1:46:06	京都大学 2		39	福田雄希
6	新井 宏美	1:09:14	新潟大学 3		41	長峯 大樹	1:46:43	東北大学 4		40	渡辺拓也
7	花井 理沙	1:12:32	椋山女学園大学 4		42	八重樫 集	1:47:06	東北大学 4		41	長峯 大樹
8	水野 日香里	1:13:07	椋山女学園大学 3		43	石黒 裕将	1:49:21	岩手大学 2		42	八重樫 集
9	常住 紗織	1:16:22	筑波大学 4		44	松矢将太郎	1:50:28	京都大学 3		43	石黒 裕将
10	江幡 禎子	1:16:42	東北大学 4		45	大嶋 拓実	1:50:35	東京工業大学 2		44	松矢将太郎
11	佐野 まどか	1:17:04	東北大学 2		46	辻 晃	1:51:02	金沢大学 2		45	大嶋 拓実
12	太田 夏美	1:17:33	千葉大学 3		47	藤島 陽平	1:53:29	北海道大学 4		46	辻 晃
13	大沼 由佳	1:17:54	東北大学 2		48	伊藤 瑛悟	1:56:02	北海道大学 4		47	藤島 陽平
14	菊池 ひかる	1:18:56	宮城学院女子大学 2		49	柚 俊範	1:56:54	北海道大学 2		48	伊藤 瑛悟
15	若山 亜美里	1:21:36	静岡大学 3		50	市脇翔平	1:56:59	京都大学 3		49	柚 俊範
16	田代 祐香里	1:23:00	日本女子大学 3		51	小澤宏紀	1:58:28	名古屋大学 3		50	市脇翔平
17	後藤 未妃	1:24:43	宮城学院女子大学 4		52	小野 敦央	1:58:46	東北大学 2		51	小澤宏紀
18	根本 真弓	1:25:24	岩手大学 4		53	梶谷 周平	2:01:17	東北大学 4		52	小野 敦央
19	永倉 由美子	1:26:16	立教大学 2		54	小山博之	2:03:15	新潟大学 2		53	梶谷 周平
20	堀 文音	1:27:36	奈良女子大学 4		55	佐藤 広志	2:04:07	岩手大学 2		54	小山博之
21	本間 理紗	1:30:05	東北大学 3		56	鈴木 淳士	2:11:53	東北大学 4		55	佐藤 広志
22	谷口 美貴	1:31:44	大阪大学 4		57	藤田純也	2:17:54	京都大学 3		56	鈴木 淳士
23	高橋 愛衣	1:31:45	金沢大学 3			横田 壘	2:36:14	岩手大学 2		57	藤田純也
24	江口 沙綾	1:32:03	岩手大学 2			浅利直宏	DISQ	名古屋大学 3			横田 壘
25	小玉 千晴	1:32:31	椋山女学園大学 2			吉谷 浩平	DISQ	東北大学 1			浅利直宏
26	佐久間 風花	1:34:39	椋山女学園大学 3			大月 隆寛	DISQ	静岡大学 3			吉谷 浩平
27	三輪 友里花	1:38:08	立命館大学 4								大月 隆寛
28	阿久津 美里	1:39:57	東京農工大学 4								
29	鈴木 聡子	1:41:14	東北大学 4								
30	寺岡 倫子	1:42:39	獨協大学 3								
31	大友 沙織	1:46:46	宮城学院女子大学 4								
32	竹之内 香	1:47:23	宮城学院女子大学 4								
33	後藤 梨恵	1:48:55	椋山女学園大学 2								
34	春名 敦子	1:51:51	お茶の水女子大学 2								
35	水原 真実	1:53:39	岩手大学 1								
36	渡辺 文子	2:01:25	実践女子大学 2								
37	浅川 里佳子	2:07:03	実践女子大学 2								
38	近藤 つかさ	2:11:03	椋山女学園大学 2								
39	酒井 暁子	2:12:20	岩手大学 2								

優勝者の言葉

女子選手権者 高野美春

ずっと憧れていたインカレの舞台で、優勝できたことを本当に嬉しく思います。

2005年にJWOCに行ってから、毎回インカレを見てきました。そして観戦者から参加者へと立場が変わり、早3年。今まで表彰台に上ることができず、インカレに対して良いイメージがありませんでした。今回も優勝できるとは思っておらず、成績のことはあまり考えないようにしていました。でも過去4回を含め、勝ちたいという気持ちは常にありました。しかし振り返ってみると、チャンピオンを目指すにあたっては、ただただがむしゃらに動いていました。どうすれば勝てるのか、どんな精神状態が自分にとってベストなのか、チャンピオンとはどんな存在なのか、そんなことは分からず、実際にチャンピオンになってから感じたことが多くありました。今まで大きな舞台で勝った経験がなく、チャンピオンを目指す上で、どのような心持ちで挑んだら良いのか分からなかったのです。

しかし今回は過去4回は違い、すごく落ち着いていました。いつもはインカレを楽しむにすぎず、荷物を1週間前から準備していたのですが、今回は前日にのんびりと準備しました。また今までは本番に向けてやることをリストアップしており、いつもやるべきことがたくさん書かれていたのですが、今回は何かをやらなくてはいけないと感じることはなく、2週間前からはトレーニングも地図読みも自分のやりたいようにやっていました。義務ではなく、ごく自然に行うことで今まではない心の余裕が生まれたように思います。今までは「勝ちたい」という言葉に縛られていたのかもしれませんが。でも今回は「勝つ」ことをすごく楽しんでいただいているように思います。

今回のインカレで優勝するまでには入間市 OLC を始め、埼玉県協会、JWOC 関係の方々、杏友会、東大 OLC など、ここには書ききれないほど本当に多くの方々とのお付き合いがあり、支えていただき、ここまでやってこられたのだと改めて思います。また会場で励ましあい、互いに切磋琢磨してきた仲間がいたからこそ、自分も頑張ってきたと思っています。私にはあと3回のインカレが残されています。ここからが本当の勝負です。これからもオリエンテーリングを楽しみながら、頑張っていきます。

最後になりましたが、今回も無事にインカレを開催してくださったインカレ運営者の方々ははじめ、このインカレを開催するにあたってご尽力いただいた多くの方々に心から感謝いたします。素敵な舞台を用意してくださり、本当にありがとうございました。

男子選手権者 小林遼

インカレロング優勝。

夢のまた夢と思っていた、予想以上の結果でした。

今回のインカレは、初のロングエリートということで、自分がどこまでいけるのか「挑戦」の気持ちで走ったインカレでした。今考えると、それが思い切りの良さを引き出し、後半の爆発力につながったのかもしれない。

レースのイメージは、ストレスフルといわれていた前半はゆっくり着実に、後半は持ち前のスピードを生かして追い上げていこうという展開を考えていました。チャンスがあるとすれば後半、それまでに大きく差がつかなければもしかすると…？と、結果に関してはかなり淡い期待感で気楽に走るつもりでした。

実際のレースは、決してミスのない完璧なレースとは言えない内容でした。6→7ではかなり大きいミスをしてしまいましたが、逆にこのミスが開き直りを生み、精神的にとっても落ち着くことができたのは勝因の一つだと思います。ここで気を引き締め直し、逆にさらに集中力を高めて、スピードの出るといわれていたトレイン東部での勝負にかけました。終わってみれば、一時3分の差が付いていましたが、それを後半部で逆転していました。ミスを除けば、本当に理想の展開でレースが進んでいて、振り返ると自分でもびっくりするくらいです。

ラストコントロールからゴールまでは長く感じましたが、苦しさよりももっと楽しんでいただけた、という思いが強かったです。本当に楽しかった。仮に優勝できなかったとしても自身の最高のレースでした。

インカレミドル・リレーももう目の前に迫っています。高速トレイン・日光にて再び思い切りのいい走りができるように、また6年ぶりの東大のリレー優勝を目指して、日々精進してまいります。

最後に、運営者不足という危機に瀕しながらも、どうにかインカレを開いてくださった運営者の方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

コースプランナー解説

大西 康平

今回のコースセットを組むに当たってはコースの準備を始めたのは7月でした。最初は前回のインカレでスタートエリアになっていた北東エリアに地図を拡大するという話があり、そこを使いつつ西側のエリアでロング・ディスタンス競技らしく勝負どころとなるロングレグを作ったコースを作成しようと考えました。実際には10月の試走を終えて旧地図よりも植性の悪化が著しくコースの変更を余儀なくされました。その後いろいろと工夫を重ねて全体的にはロングらしいコースには仕上げられたのではないかと考えています。特に男子・女子ともにウイニングタイムの設定がうまくいったことはひとえに大会1ヶ月前から3回もの試走につきあってくださった運営者のみなさんと常にMEを走り続けてくださったコントローラの櫻本さんのおかげです。

【ME】

△→2

スタートからの出だしはいかに方向維持をしながらオリエンができるかが問われていると思います。予想よりも上位者のルートがバラけています。おそらくプレスタート方式だったため最初は地図をしっかりと読めていなかった人が多かったのではないかと考えています。スタートでの出だしを見ている感じでは半分近くの人がスタート直後に右の沢へ落ちて行ってルートミスをしていました。その中でも優勝者の小林選手はしっかりとレグ線付近を進んでおりさすがといったところです。

2→3

このレグは勝負レグとなるように西の山塊を目一杯使って組みました。右の道周りや左回りのルートなどいろいろ考えられますが、ベストルートとして想定したのはレグ線に沿ったまっすぐに近いルートです。実際に林選手、小林選手がベストルートに近いところを通っております。上位者のラップを見る限りでは全員12分台のラップを出しておりこのレグで13分を切ることが勝負の分かれ目になったのではないかなと思います。そして、ルートは様々わかれてはいるのですが、ルートによる差はそれほどないということもわかります。

3→8

3→4は鞍部まで道で上り、尾根を登り植性界から小径へとつないでアタックする。まっすぐ沢を詰めて直進というルートの選手もいたようであるが片岡選手はここで1分ほどのロス。4→5はショートカットして道へ出て道を走りアタックする。5→6は藪の中を直進のショートレグ。ここまではそれほど差は出ていない。6→7は全体的には差が出るレグではなかったものの上位者は小林選手を始めここで2分ほどのミスをしている選手が目立つ。ベストルートは藪を左に巻いて道を使ってコンタリングしてからアタック。7→8は藪沿いに下り道に出て沢を詰めて尾根を切ってアタック。

8→9

ロング競技なのでルートチョイスのできるレグがもう一つほしいと思って作ったのが、このレグです。植生の悪化により期待していたほどの選択肢はなかったもののまっすぐ湿地を切っていくのか道を左に回っていくのか悩んだのではないのでしょうか？ベストルートはもちろんまっすぐなのですが小林選手や岡本選手は道周りを選択しており、植生がそれほど良くないもあり後半のことを考えると道周りも良い決断だと思います。

9→10

脱出で小径をたどり尾根を進みちょうど道の分岐あたりで道に出るのがよい。アタックはやぶいところの穴なので正確にアタックすることが重要です。

10→14

後半はとてもスピードが出る展開となった。スピードを出しつつ以下にミスをしなかが重要でした。11のアタックは小林選手は手前のピークからそのまま直進してアタックしているがこれが一番シンプルで良いルートです。ピークの前にある鞍部から道をたどるルートはミスしやすく時間もかかる。12と13は所々ショートカットをうまくしながらとにかく走るレグスタートが後半の方に走力のある選手が多くラップがよかったです。14は尾根をたどり手前にある鉄塔やオープンをチェックしてアタック。

14→15

道走って5番道から山に入り湿地を過ぎたあたりから直進でアタックが距離的にもベストなルートです。3番道を迂回して左から沢を詰めてアタックもありますが、ベストではないと思いますが、トップの小林選手は左回りの道走りを選びトップラップを出しています。

15→◎

15からの脱出方向をしっかりと確認すれば、後はゴールまで全力で走るのみです。

【WE】

△→1

男子と同じく出だして躓いていた選手が多かったように思います。レグ線方向に道まで出れば後は道をたどって沢にアタックの簡単なレグです。

1→2

尾根をたどり鞍部やピークをチェックしピークから尾根が曲がっている方向に惑わされずに一段下の小さい尾根へ方向を維持して進めるかがポイントです。

2→3

女子ではここが一番のロングレグにしたかったのですが、距離等の制約上だいぶ短いロングレグとなってしまいました。ベストルートはまっすぐ目なルートで脱出し沢の中の道を下っていき3番道が右へ大きく曲がるところでレグ線方向に上り、そのままラフオープンまでラフに進み、ラフオープンを切って尾根上の道まで登り後は道をたどればよいです。高野、田村選手はここで安全に右に道を回り1分ほどのロスをしています。1分の差でしかなかったのはほとんどの選手が真ん中の山塊を切るときに右の方へ流されていたりだいぶ右の方で切っていたりとルート距離が延びてしまっていたように思います。ラフな区間の細かいところは気にせずまっすぐ進めるともっとタイムは伸びると思います。

3→5

3→4は男子と共通。4→5は道を走り、鞍部を通り二つ目の鞍部からはポストのある尾根へまっすぐ進み上からアタックするのがよいです。高野選手は無駄のない動きをしています。多くの選手はアタックで鞍部から沢を下りすぎ登り返してアタックしています。

5→7

ショートレグ中心で基本的にコンパス直進をしながら周りの地形を把握して進めるかどうかだと思います。

7→9

7→8は一番ミスが目立つレグでした。鞍部から不明瞭なコンタ道へと入って行くところが視界が利かず難しかったと思います。しかしながら、上位の選手は全員ルートがスムーズにいけているのでここが勝負レグだったと思います。8→9は道を走るレグですが、途中ショートカットできるところがいくつかあり、そこでいかに距離を節約して走れるかだと思います。全体的にショートカットしていない選手が多く、そのまま道を走ってしまっています。日頃から距離を最小に抑えられるように細かいルート取りにも気を配ってほしいと思います。

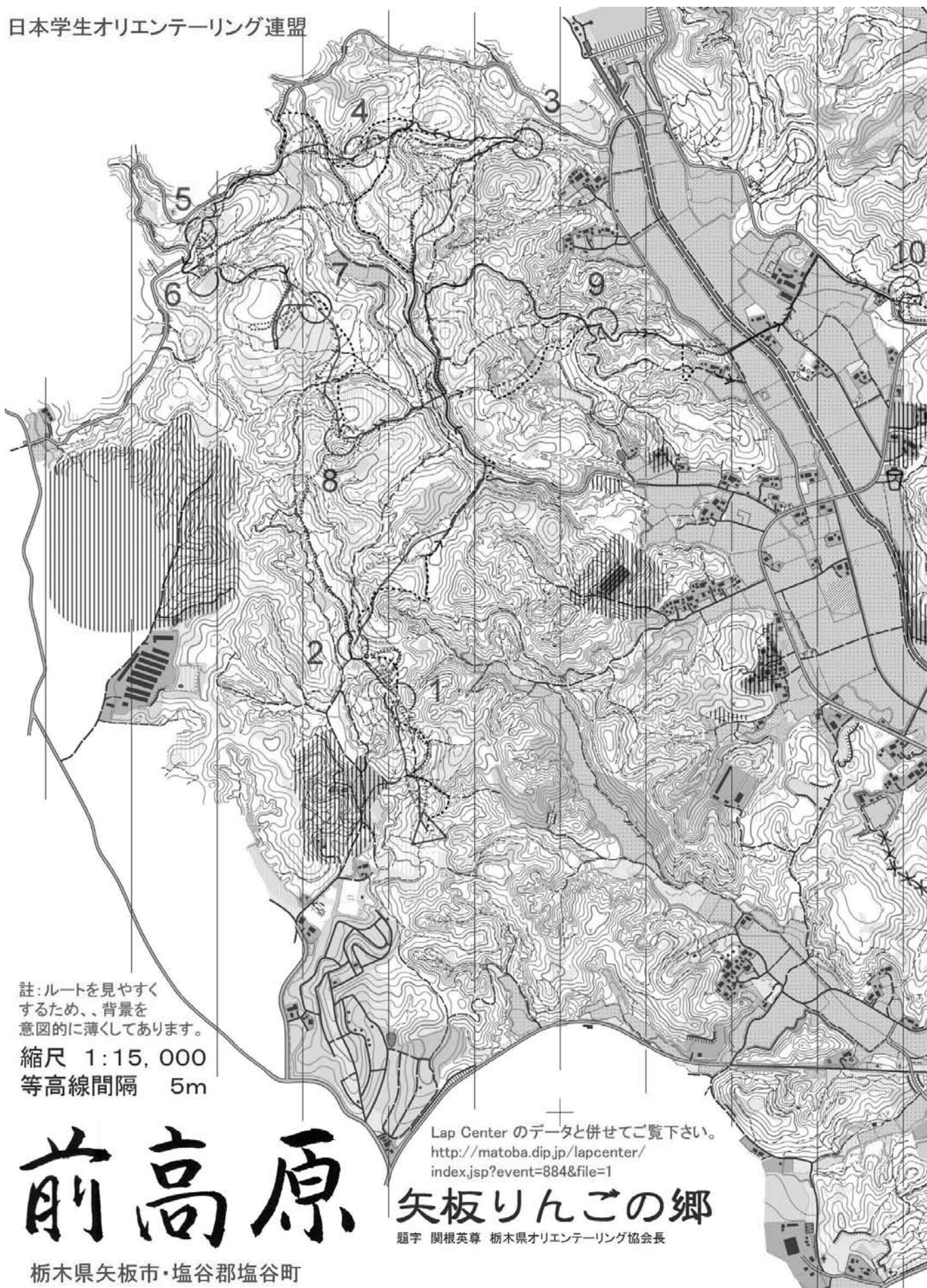
9→10

道走って崖のある曲がりからはいて沢を詰めていき藪の中にある尾根上。ポスト付近はやぶいですが、地形が大きくしっかりと地形を確認すれば問題なく行けると思います。

10→◎

ここからは全力で走るのみです。

日本学生オリエンテーリング連盟



註: ルートを見やすく
するため、背景を
意図的に薄くしてあります。

縮尺 1:15,000
等高線間隔 5m

前高原

栃木県矢板市・塩谷郡塩谷町

Lap Center のデータと併せてご覧下さい。
[http://matoba.dip.jp/lapcenter/
index.jsp?event=884&file=1](http://matoba.dip.jp/lapcenter/index.jsp?event=884&file=1)

矢板りんごの郷

題字 関根英尊 栃木県オリエンテーリング協会長



2009年度日本学生
オリエンテーリング
選手権大会
ロング・ディスタンス
競技部門
開催日
2009年11月22日(日)
男子選手権上位者
ルートマップ

立入禁止

MUE				
1	9.9 km	460 m		
▽		Y		
1 136	Y			
2 115	V	1	○	
3 111	○		↑	
4 117		V	1	Q
5 135	Y			✓
6 106	✓	Y		
7 107	V	1	○	
8 109	Y			
9 134	)(			
10 94	V	1	○	
11 62	Y			
12 175	Y	※	↑	Q
13 79	Y			
14 80	Y			
15 71	Y		↑	
16 140	X		○	
17 160	Y		↑	

360 m

優勝 小林 遼 東京3 1:19:12
2位 岡本将志 早稲田3 1:22:04
3位 林 真一 名古屋4 1:22:19
4位 片岡裕太郎
5位 谷川友太
6位 神谷泰介
7位 大橋悠輔

Special Symbols 特殊記号

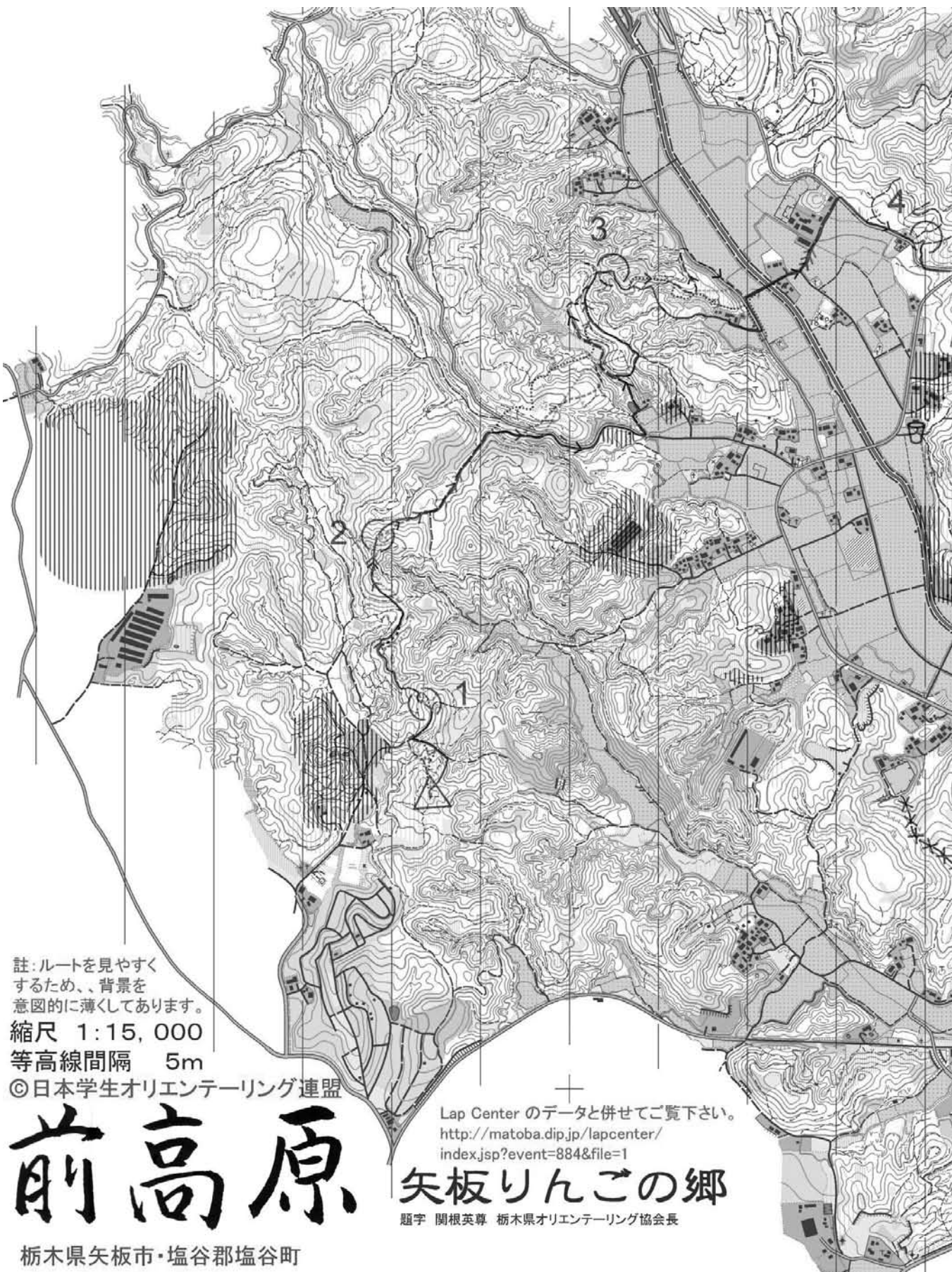
- 炭焼き窯の跡
- 小さな神社や石仏
山中の廃車
- 特に目立つ独立樹
- 石碑
- フィールドアスレチックの道具
- きのこ栽培地
- ビニールハウス

前高原 Mae Takahara
基礎原図 矢板市地形図 2500分の1
塩谷町地形図 10000分の1
D-GPSによる位置取得 2005.5~2006.2
和泉 祐 Yu Izumi
山川克則 Katsunori Yamakawa
経年修正 2009.11 山川克則

調査・作図 2005.9~2006.3
和泉 祐 Yu Izumi
中村弘太郎 Kotaro Nakamura
山川克則 Katsunori Yamakawa
地図調製
(有)ジェネシスマッピング 2009.11発行
要部修正 2007.2.8 2009.11

GENESYS
MAPPING
on demand supply





註: ルートを見やすく
するため、背景を
意図的に薄くしてあります。

縮尺 1:15,000

等高線間隔 5m

©日本学生オリエンテーリング連盟

前高原

栃木県矢板市・塩谷郡塩谷町

Lap Center のデータと併せてご覧下さい。

[http://matoba.dip.jp/lapcenter/
index.jsp?event=884&file=1](http://matoba.dip.jp/lapcenter/index.jsp?event=884&file=1)

矢板りんごの郷

題字 関根英尊 栃木県オリエンテーリング協会長



2009年度日本学生
オリエンテーリング
選手権大会
ロング・ディスタンス
競技部門
開催日
2009年11月22日(日)
女子選手権上位者
ルートマップ

立入禁止

WUE				
2	6.0 km	215 m		
▷	↗ ↘	Y		
1 112	↗			
2 113	↘			
3 134	)(			
4 94	∨	1 ○		
5 92	↘			
6 56	↗			
7 91	↖	2 L		
8 61	↗	L		
9 175	↗ ✖	T ☐		
10 84	↘			
11 140	✖	○		
12 160	↗	→		

○ ——— 360 m ———→

優勝 高野美春 十文字3 1:01:53
2位 山本紗穂里 筑波3 1:08:06
3位 田村蓉子 東京工業2 1:08:16
4位 星野智子
5位 柴田彩名
6位 新井宏美

Special Symbols 特殊記号

- 炭焼き窯の跡
- 小さな神社や石仏
山中の廃車
- 特に目立つ独立樹
- 石碑
- フィールドアスレチックの遊具

きのこ栽培地
ビニールハウス

GENESYS
MAPPING
on demand supply

前高原 Mae Takahara
基礎原図 矢板市地形図 2500分の1
塩谷町地形図 10000分の1
D-GPSによる位置取得 2005.5~2006.2
和泉 祐 Yu Izumi
山川克則 Katsunori Yamakawa
経年修正 2009.11 山川克則

調査・作図 2005.9~2006.3
和泉 祐 Yu Izumi
中村弘太郎 Kotaro Nakamura
山川克則 Katsunori Yamakawa
地図調整
(有)ジェネシスマッピング 2009.11発行
要部修正 2007.2.8 2009.11



学生併設 / 一般併設クラス成績表

MUL 1 - 6.4km ↑ 235m

1	羽野 高志	0:49:05	一橋 2
2	吉富哲志	0:49:58	名古屋 2
3	新城 大樹	0:52:04	東京工業 3
3	楠 恵輔	0:52:04	東京工業 2
5	新見 哲也	0:52:19	早稲田 2
6	藤井 通太	0:52:51	東京工業 3
7	福西 佑紀	0:53:35	東京 3
8	矢内 剣	0:53:42	東京 3
9	谷口 寛彰	0:54:11	早稲田 2
10	中村 親治	0:55:06	立命館 3
11	石松 純	0:58:47	筑波 4
12	堀越 裕之	0:58:51	東京工業 4
13	杵村 悠司	0:59:45	慶應義塾 4
14	鶴田 靖行	1:00:29	早稲田 4
15	石田英己	1:00:46	新潟 4
16	迫川 雅至	1:00:48	東北 2
17	保川 一步	1:02:01	東京工業 2
18	中島基之	1:02:12	京都 2
19	深澤 至貴	1:02:29	東北 2
20	石輪 健樹	1:02:36	東京 2
21	木村 次次郎	1:02:50	岩手 3
22	小野寺 翔	1:03:16	岩手 2
23	成田 佑基	1:03:51	岩手 2
24	小室 隆之	1:04:55	横浜国立 2
25	加賀谷 駿	1:05:02	千葉 2
26	井上裕二	1:05:26	名古屋 2
27	山下智弘	1:05:59	京都 2
28	小林篤司	1:06:34	京都 3
29	西田 知弘	1:08:00	金沢 2
30	鍋谷泰紀	1:09:03	茨城 3
31	荒居孝紀	1:10:18	名古屋 2
32	白松 幸紀	1:10:22	慶應義塾 2
33	岩瀬 亮	1:11:05	東京 3
34	古積 拓見	1:11:42	東京農工 2
35	大類 健介	1:13:08	静岡 4
36	洲上 貴弘	1:13:45	東京 2
37	野村 祐樹	1:14:06	東北 2
38	新谷俊幸	1:14:19	名古屋 4
39	中川慎太	1:16:22	名古屋 3
40	大津勇輝	1:17:18	新潟 2
41	幸原朋広	1:18:25	大阪 3
42	清水 智仁	1:18:53	東京農工 3
43	櫻井 文彦	1:20:26	東北 4
44	坂本 孝久	1:21:23	東北 3
45	菅原 圭生	1:24:33	福島 2
46	宇野正信	1:26:35	名古屋 2
47	渡辺 達己	1:30:01	東京農工 4
48	渡会 真一	1:33:49	静岡 4
49	内田 茂樹	1:35:58	東京農工 3
50	伊澤 裕紀	1:37:12	東北 2
51	鈴木稳弥	1:38:17	名古屋 4
52	鶴瀬和秀	1:39:59	名古屋 2
53	端山 琢巳	1:54:22	東京工業 2
	米倉 宏	2:04:28	東京工業 4
	南 翔	DISQ	北海道 2
	北原 昂	DISQ	東京工業 3

MUL 2 - 6.4km ↑ 265m

1	長谷 勉	0:56:07	一橋 2
2	高野 圭司	0:57:00	東京工業 3
3	内田亘紀	0:58:55	名古屋 2
4	小林 春樹	1:00:47	東北 2
5	野々垣 亘	1:01:30	一橋 4
6	中野 雅之	1:02:56	東京 2
7	久保田 翔	1:03:49	東京工業 2
8	今野 智一	1:04:27	東北 2
9	下嶋 健太	1:05:06	筑波 4
10	田原 壮一郎	1:05:34	慶應義塾 4
11	菅谷裕志	1:05:41	名古屋 2
12	久保山 裕己	1:06:20	東京工業 4
13	木下 新一	1:06:21	早稲田 3
14	日暮 一太	1:06:43	筑波 3
15	橋本 龍真	1:07:09	東北 2
16	谷川 慶治	1:07:36	福島 2
17	渡邊 和樹	1:08:41	千葉 2
18	影山 奨	1:09:00	東北 3
19	湯田 俊輔	1:09:30	東北 4
20	中津留聡士	1:10:33	京都 2
21	渡瀬友亮	1:10:57	名古屋 3
22	東條 真也	1:11:16	慶應義塾 3
23	鳥居 正	1:11:30	千葉 2

24	横田 勇輝	1:13:27	金沢 2
25	番場 大貴	1:14:09	東京農工 3
26	宮崎 大地	1:14:33	東京工業 2
27	池田直人	1:14:34	名古屋 2
28	加藤 哲平	1:15:04	東京工業 2
29	吉田 昌弘	1:16:07	東北 3
30	植田鎮	1:17:08	名古屋 2
31	堀越 和宜	1:18:05	東京 3
32	御崎 智之	1:20:28	東京工業 4
33	玉田芳崇	1:20:35	名古屋 4
34	松田 真宏	1:21:22	東京農工 4
35	高島 拓也	1:22:50	金沢 2
36	小澤隆嘉	1:24:19	名古屋 4
37	宇都宮圭	1:25:21	京都 3
38	小橋 昌明	1:27:00	東京 3
39	宮田雅人	1:27:15	茨城 4
40	酒井 将宏	1:28:33	東京工業 3
41	五島 良洋	1:30:33	静岡 4
42	鈴木 庸平	1:38:53	早稲田 2
43	飯田 恭朗	1:40:09	東京農工 3
44	高瀬 暁	1:44:19	北海道 3
45	赤嶺 賢彦	1:49:17	東京工業 3
46	四辻明洋	1:53:23	大阪 2
47	伊藤 光平	1:54:05	東京農工 2
	荒木正登	2:02:25	名古屋 3
	曲木 昂	2:18:47	岩手 3
	金曾 祐一	2:29:11	東京農工 2
	新見 健輔	DISQ	東北 2
	島礼央	DISQ	岩手 4
	水野 陽介	DISQ	東京農工 3
	多田 純樹	DISQ	岩手 2

MUS - 4.3km ↑ 115m

1	山川雅也	0:36:39	名古屋 4
2	小林 幹明	0:40:26	東京 4
3	山下 博徳	0:42:44	一橋 4
4	大木 雄太	0:48:00	早稲田 2
5	武田 章	0:50:48	立命館 2
6	矢沢廉平	0:51:47	茨城 3
7	加藤 航大	0:52:27	東京工業 2
8	渡邊祐輔	0:52:30	茨城 3
9	勝又健太	0:53:08	茨城 2
10	近藤準	0:55:03	茨城 3
11	島崎拓也	0:57:29	茨城 2
12	今野 新	1:04:54	早稲田 3
13	額賀翔平	1:10:00	茨城 2
14	高柳 陽介	1:10:49	静岡 2
15	佐藤 俊	1:12:55	早稲田 3
16	翁長 翔平	1:16:32	千葉 2
	小笠原 雄	DISQ	京都 2
	門脇 駿	DISQ	立命館 2
	庄田 陸平	DISQ	静岡 2
	川端 真彰	DISQ	立命館 2

MUF 1 - 4.1km ↑ 130m

1	寺田 啓介	0:31:30	京都 1
2	三谷 洋介	0:32:16	東京 1
3	齋藤 遼一	0:33:01	東北 1
4	嵯峨 駿佑	0:33:32	東北 1
5	曾原 直也	0:34:23	東京工業 1
6	山本 峻丸	0:35:26	電気通信 1
7	福嶋 哲也	0:36:45	東北 1
8	高田 翔午	0:37:35	金沢 1
9	高崎 晋太郎	0:39:45	東北 1
10	結城 克哉	0:40:13	東京 1
11	竹田 駿介	0:40:14	静岡 1
12	中川 卓也	0:40:23	東北 1
13	山田 宏	0:40:40	東北 1
14	君家 翔太	0:43:23	京都 1
15	宇川 裕亮	0:43:46	東京 1
16	中山 貴裕	0:44:07	東北 1
17	田村 晃太郎	0:44:09	東京 1
18	丸山 拓	0:46:21	早稲田 1
19	古川 直樹	0:46:41	一橋 1
20	近常直樹	0:46:58	名古屋 1
21	赤川 裕貴	0:48:28	東京農工 1
22	辻坂 優	0:48:29	早稲田 1
23	大橋 拓世	0:48:43	一橋 1
24	金津 壮一郎	0:49:38	金沢 1
25	布施匡也	0:50:22	名古屋 1
26	大村拓磨	0:51:05	名古屋 1
27	柏樹 彬広	0:52:48	北海道 1

28	奥 俊博	0:52:56	東北 1
29	井上 瑞樹	0:53:52	東京農工 1
30	登倉 章仁	0:54:20	立命館 1
31	島本 拓実	0:54:52	京都 1
32	三輪 幸寛	0:55:57	京都 1
33	小泉 卓也	0:57:49	東北 1
34	和田 洋介	1:00:28	京都 1
35	小塚 俊来	1:04:40	東京工業 1
36	藤田 泰弘	1:14:05	金沢 1
37	二階堂晋作	1:19:17	新潟 1
38	石井凉大	1:19:56	新潟 1
	菊地 隆太	DISQ	東北 1
	今野 嵩久	DISQ	岩手 1

MUF 2 - 4.3km ↑ 125m

1	関口 智大	0:32:05	東北 1
2	中村 憲	0:34:25	東北 1
3	田村 直登	0:35:23	東北 1
4	岩本 拓巳	0:35:32	横浜市立 1
5	燧 暁彦	0:36:05	東京 1
6	山本 剛史	0:36:15	東京工業 1
7	松尾 遼	0:36:26	京都 1
8	岡本 耀平	0:36:37	京都 1
9	池田 純也	0:37:20	一橋 1
10	中川晃孝	0:37:41	名古屋 1
11	石坂 翼樹	0:39:52	金沢 1
12	三善研吾	0:40:43	名古屋 1
13	布木 純	0:40:52	東北 1
14	古里 亮太	0:41:38	東京 1
15	瀧澤 開	0:42:30	千葉 1
16	多比羅 大	0:43:52	千葉 1
17	萩原 陸人	0:45:47	筑波 1
18	千代澤 健右	0:45:57	早稲田 1
19	黒田 勇人	0:46:30	慶應義塾 1
20	水藤 拓人	0:46:40	京都 1
21	小藤 涼介	0:47:03	東京工業 1
22	阿部 龍太郎	0:48:29	東北 1
23	北 翔太	0:48:43	金沢 1
24	新美 宏樹	0:51:21	静岡 1
25	谷川 徹	0:52:28	東北 1
26	今井友之	0:52:31	新潟 1
27	相澤 洋輔	0:52:40	東京工業 1
28	佐藤雅俊	0:54:10	名古屋 1
29	伊藤 展高	0:55:59	東北 1
30	重田 泰広	0:56:47	北海道 1
31	水野佳太	0:59:23	新潟 1
32	山本 裕太	1:05:11	京都 1
33	阿部 和浩	1:07:08	岩手 1
34	山下 健司	1:11:58	東京 1
35	秋庭健介	1:12:53	茨城 1
36	加賀 俊介	1:22:46	岩手 1
37	室辰 健一郎	1:28:00	東京農工 1
38	都築 玄輝	1:28:31	静岡 1
39	宇野 賢省	1:58:47	東北 1
	廣部 達哉	2:01:43	金沢 1
	高橋 一生	DISQ	東北 1
	石井 亘	DISQ	東北 1
	佐藤 亮介	DISQ	東北 1
	林 孝樹	DISQ	一橋 1
	佐々木 敦斗	DISQ	東京 1

MUB - 4.1km ↑ 130m

1	池田 昌司	0:39:18	筑波 2
2	若松 俊哉	0:39:42	東京 3
3	川口 祥央	0:45:18	静岡 2
4	鳥山 聡志	1:02:17	静岡 2

WUL - 5.3km ↑ 160m

1	水野 綾子	0:53:32	東北 3
2	津田 春菜	0:55:26	千葉 3
3	林 美樹	0:59:26	文理学園女子 2
4	村松 瞳	1:00:53	東京農工 2
5	立田 美雪	1:03:57	桐山女学園 3
6	勝田 あかね	1:04:38	東京農工 2
7	鈴木 亜希	1:05:26	東京農工 4
8	吉田奈津子	1:05:39	岩手県立 2
9	井上 舞	1:06:51	東京工業 2
10	澤田美有美	1:08:04	宮城学院女子 3
11	南枝美希	1:08:22	日本女子 2
12	田中 里奈	1:08:33	実践女子 2
13	井戸 美菜	1:09:12	実践女子 3
14	野口 真規子	1:10:27	金沢 4

15	水野 志織	1:10:36	奈良女子 2
16	笹田 京	1:13:05	岩手県立 2
17	篠原 舞	1:13:42	桐山女学園 3
18	佐藤愛華	1:16:14	宮城学院女子 2
19	井戸川祥子	1:17:04	日本女子 2
20	西風 美里	1:18:47	桐山女学園 2
21	内山美弥	1:20:34	日本女子 2
22	白井 亜弥	1:23:49	日本女子 2
23	村上 梨枝	1:26:34	実践女子 3
24	奥山美穂	1:26:54	宮城学院女子 3
25	大谷 美紀	1:28:20	桐山女学園 2
26	西山 和沙	1:29:51	桐山女学園 2
27	北村 佳代子	1:31:02	津田塾 3
28	伊藤 恵梨	1:32:32	桐山女学園 2
29	加藤 美沙央	1:35:14	桐山女学園 2
30	佐藤美紗	1:35:23	宮城学院女子 2
31	角谷 美南	1:36:48	桐山女学園 2
32	太田 晶子	1:38:48	金沢 2
33	塚本 美咲	1:40:13	桐山女学園 2
34	成田結花	1:44:04	日本女子 2
35	若狭 まどか	1:48:34	金沢 2
36	塚本 草乃	1:52:54	桐山女学園 3
	大村 理恵	2:06:14	桐山女学園 2
	西谷 佳菜	2:13:17	京都女子 2
	中村 恭子	DISQ	実践女子 2

WUS - 4.3km ↑ 115m

1	柿沼 里奈	1:11:46	東京家政 2
2	武藤 未希	1:28:04	実践女子 2
3	関田 愛美	1:36:04	実践女子 2

WUF - 4.1km ↑ 100m

1	高嶋智美	0:39:59	岩手県立 1
2	幸谷奈津美	0:43:51	宮城学院女子 1
3	大藪 良実	0:44:18	岩手 1
4	宮恵美	0:44:45	宮城学院女子 1
5	政田 海来	0:45:14	千葉 1
6	平方 遥子	0:45:26	東北 1
7	吉川 真由	0:46:51	桐山女学園 1
8	村上 知帆	0:47:36	東京農工 1
8	川上 結衣	0:47:36	東京農工 1
10	青木 佳世	0:48:13	東北 1
11	田村佳奈子	0:49:10	岩手県立 1
12	島山 真紀	0:49:22	岩手 1
13	芦澤 咲子	0:49:48	相模女子 1
14	辻 麻奈	0:51:25	千葉 1
15	小柳 優紀	0:54:29	実践女子 1
16	小泉 佳織	0:56:57	津田塾 1
17	高木 友理	0:57:41	お茶の水女子 1
18	古川 真由	0:59:11	桐山女学園 1
19	石川 実起	0:59:14	奈良女子 1
20	伊藤 愛子	1:02:21	桐山女学園 1
21	上山祐佳里	1:03:11	宮城学院女子 1
22	城間 友子	1:03:52	岩手 1
23	井村 一乃	1:04:29	桐山女学園 1
24	田嶋 嶋貴	1:07:42	奈良女子 1
25	中田 朱音	1:14:45	桐山女学園 1
26	伊東 里紗	1:17:27	桐山女学園 1
27	菊池さおり	1:18:16	宮城学院女子 1
28	篠原 実史	1:19:53	実践女子 1
29	戸塚菜月	1:21:29	名古屋 1
30	久米 美里	1:25:38	桐山女学園 1
31	門間 理恵	1:34:57	桐山女学園 1
32	望月 彩葉	1:35:50	東京農工 1
33	伊藤 奈巳	1:40:04	桐山女学園 1
34	松本友里奈	1:41:52	日本女子 1
	森崎 智子	2:28:43	桐山女学園 1
	堀田 梨恵	DISQ	桐山女学園 1
	新實 望見	DISQ	桐山女学園 1
	二村 春生	DISQ	桐山女学園 1
	丹後 真奈実	DISQ	奈良女子 1

トレイルO成績表

Aクラス（13点満点）

総合順位	学生氏名	クラブ・所属名	得点	タイム(sec)
1	1 吉田 昌弘	東北大学	13	61
2	田中 徹	トレイルO協会	12	16
3	藤生 考志	東京OLクラブ	12	25
4	2 八重樫 集	東北大学	12	29
4	高橋 厚	トレイルO協会	12	29
6	茅野 耕治	トレイルO協会	12	40
7	3 戸田 瑛	東北大学	12	80
8	山口 尚宏	トレイルO協会	12	88
9	4 伴 毅	京都大学	12	98
10	5 松矢 將太郎	京都大学	11	31
11	木村 治雄	トレイルO協会	11	53
12	6 三森 創一郎	東北大学	11	62
13	阪本 博	トレイルO協会	11	75
14	大久保 裕介	トレイルO協会	11	82
15	小泉 辰喜	東京OLC	11	83
16	田代 雅之	静岡県	11	107
17	7 谷川 友太	名古屋大学	10	33
18	8 橋本 龍真	東北大学	10	58
19	9 影山 奨	東北大学	10	76
20	10 鈴木 聡子	東北大学	10	79
21	11 伊藤 瑛悟	北海道大学	10	82
22	12 宮本 佳記	京都大学	10	85
23	石塚 脩之	東北大学OB	10	93
24	杉本 光正	トレイルO協会	10	100
25	13 吉谷 浩平	東北大学	10	120
26	14 石井 亘	東北大学	10	125
27	15 佐藤 悠太	東北大学	10	128
28	16 山上 大智	東京大学	10	132
29	松川 清一	トレイルO協会	10	134
30	17 古里 亮太	東京大学	10	178
31	小山 太郎	トレイルO協会	9	57
32	海老沢 正	東京OLC	9	93
32	石井 龍男	トレイルO協会	9	93
34	18 岩瀬 亮	東京大学	9	102
35	19 大橋 悠輔	東北大学	9	104
36	20 鈴木 淳士	東北大学	9	117
37	中尾 吉男	東大OB	9	127
38	鈴木規弘	トレイルO協会	9	156
39	21 洲上 貴弘	東京大学	9	189
40	22 新城 大樹	東京工業大学	8	51
41	23 谷川 徹	東北大学	8	82
42	八神 遥介	チームインリン	8	86
43	24 柴森 貴久	京都大学	8	90
44	25 菊池 ひかる	宮城学院女子大学	8	104
45	26 大木 孝	東京大学	8	107
45	27 福西 佑紀	東京大学	8	107
47	28 燧 暁彦	東京大学	8	116
48	29 岡本 耀平	京都大学	8	119
49	30 宇都宮 圭	京都大学	8	126
50	31 小林 遼	東京大学	8	147
51	32 中村 憲	東北大学	8	157
52	33 矢内 剣	東京大学	8	184
53	34 小林 幹明	東京大学	7	48
54	35 今野 智一	東北大学	7	80
55	36 田中 裕也	東京大学	7	89
56	37 野村 祐樹	東北大学	7	90
57	38 湯田 俊輔	東北大学	7	110
58	39 中野 雅之	東京大学	7	117
59	勝田 弘	東北大学OB	7	122
60	40 田村 晃太郎	東京大学	7	159
61	41 佐々木 敦斗	東京大学	7	169
62	42 小玉 千晴	相山女学園大学	7	189
63	43 小林 春樹	東北大学	6	25
64	44 本間 理紗	東北大学	6	26
65	45 柚 俊範	北海道大学	6	41
66	46 迫川 雅至	東北大学	6	86
67	福田 雅秀	川越OLC	6	89
68	47 結城 克哉	東京大学	6	116
69	48 後藤 未妃	宮城学院女子大学	6	135
70	49 内山 将一	東北大学	6	173
71	50 小野 敦央	東北大学	6	240
72	51 田邊 拓也	東北大学	5	30
73	52 齋藤 遼一	東北大学	5	74
74	53 水野 綾子	東北大学	5	94
75	西村 徳真	ぞんび〜ず	5	95
76	54 堀越 和宜	東京大学	5	104
77	55 深澤 至貴	東北大学	5	107
77	56 小橋 昌明	東京大学	5	107
79	57 三輪 幸寛	京都大学	5	157
80	58 櫻井 文彦	東北大学	5	198

81	松橋 徳敏	トレイルO協会	4	126
82	59 南 翔	北海道大学	4	136
83	60 柴田 彩名	相山女学園大学	4	146
84	61 伊澤 裕紀	東北大学	3	114
85	62 大沼 由佳	東北大学	3	147
86	63 堀田 遼	東京大学	2	28
87	64 中井 智規	東北大学	2	167
参	荒井 正敏	トレイルO協会	10	199
	野々垣 亘	一橋大学	DNS	
	山下 博徳	一橋大学	DNS	
	三谷 洋介	東京大学	DNS	
	石輪 健樹	東京大学	DNS	
	須藤 かおる	入間市OLC	DNS	
	山下 友宏	トレイルO協会	DNS	
	今井 信親	トレイルO協会	DNS	
	吉村 年史	北九州OLC	DNS	

Nクラス（11点満点）

総合順位	学生氏名	クラブ・所属名	得点	タイム(sec)
1	栗城 吾央	岩手風になるEST	11	4
2	1 高橋 一生	東北大学	11	7
2	2 福嶋 哲也	東北大学	11	7
4	3 関口 智大	東北大学	11	8
5	4 佐藤 亮介	東北大学	11	27
6	5 奥 俊博	東北大学	11	32
7	6 高橋 恒二	東北大学	10	7
8	7 阿久津 美里	東京農工大学	10	8
8	8 中川 卓也	東北大学	10	8
10	9 阿部 龍太郎	東北大学	10	9
11	10 佐野 まどか	東北大学	10	10
12	11 布木 純	東北大学	10	11
13	12 田村 直登	東北大学	10	13
14	13 中山 貴裕	東北大学	10	14
15	14 平方 遥子	東北大学	10	15
15	15 和気 昌弘	東北大学	10	15
17	16 新見 健輔	東北大学	10	26
18	諸田 幸一	佐野OLC	10	66
19	17 青木 佳世	東北大学	9	14
20	18 高崎 晋太郎	東北大学	9	19
21	19 小泉 卓也	東北大学	9	72
22	20 嵯峨 駿佑	東北大学	9	76
23	21 山田 宏	東北大学	7	13
24	22 菊地 隆太	東北大学	6	22
参	菅原 圭生	福島大学	10	5
参	谷川 慶治	福島大学	10	10
	田口 翠	東北大学	DNS	

団体戦（Aクラス）

順位	氏名	クラブ・所属名	得点	タイム(sec)
1	東北大学		37	170
	吉田 昌弘		13	61
	八重樫 集		12	29
	戸田 瑛		12	80
2	京都大学		33	214
	伴 毅		12	98
	松矢 將太郎		11	31
	宮本 佳記		10	85
3	東京大学		29	412
	山上 大智		10	132
	古里 亮太		10	178
	岩瀬 亮		9	102
4	北海道大学		20	259
	伊藤 瑛悟		10	82
	柚 俊範		6	41
	南 翔		4	136
5	宮城学院女子大学		14	239
	菊池 ひかる		8	104
	後藤 未妃		6	135
6	相山女学園大学		11	335
	小玉 千晴		7	189
	柴田 彩名		4	146
7	名古屋大学		10	33
	谷川 友太		10	33
8	東京工業大学		8	51
	新城 大樹		8	51

トレイルの報告

山口 拓也

経過

・コース設定者

2月中旬ごろ、どうやら今回のインカレロングは矢板での開催らしいというのを聞き、トレイルをどうするか自分なりに考え始めた。過去2年自分がコース設定に関わってきて、自分のような若手のコース設定者があまりいないのでは？という思いもあって、自分が知っている、ある程度トレイルの経験と実力があり、なおかつ矢板になるべく近いところに在住という条件のオリエンティアに打診することにした。それが今回コース設定者の高田氏である。トレイルO協会会長の下承を得たうえで、インカレの終了後に声をかけ、10日後、引き受けていただけるとの連絡を受けた。

・トレインの選定まで

3月下旬、モデルイベント会場が矢板運動公園にできなくなった（おそらく城の湯になる）との情報を受け、トレイルOの開催も、①城の湯周辺のトレインに変更（会場から移動をかけることも視野に入れる）②ロング当日に矢板運動公園で行う③公認大会化をあきらめる（城の湯でデモ的に行う）のいずれかを迫られた。インカレに併設するという性質上、学生が参加しやすいことを優先順位の上位におき、①の実現を目指して下見を2度行った。Bクラスで使用した城の湯を含むエリアは、Aクラス難度の課題設定には向かず、会場からどうにか徒歩移動で行ける範囲を探した。その結果が今回のAクラスのエリアである。このエリアは、森林や耕作地を主体としており、国内のトレイルO大会でよくある公園トレインとは性質が違う。とはいえ、トレイルOも元々はフットOと同じく森の中の自然な特徴物を利用して課題を設定するのがオリジナルに近い形である。その点ではむしろ今回の選定は良かったのではないかなと思う。（実はコース設定する側にしても、公園トレインのように多くの特徴物との整合性をとる負担が少なく、比較的組みやすい。）

・コース設定と地図修正のスケジュール

コントローラーによるチェックが大会前に2回入るようスケジュールを組み、コース設定と地図修正の作業を進めていった。高田氏と自分がともに都合がつく日程で、昨年同様「余裕こそないものの順調に」できた。

今年はBクラスにTCを設けた。例年、TCのない初心者向けクラスでは成績がバラつかず、同順位が何人も出る事態になっていたことが理由である。初心者説明が手間であったが、用意できるメダルにも限りがあるので、必要に応じてTCを設けてもよいと思われる。（それでも学生1位が2人出るくらいなのだから・・・。）

・コースの難易度について

Aクラスは少し易しめの設定になったかと思っていたが、結果を見ると参加者のレベルに合った、まさにお手本のような得点分布になっていた。Bクラスは参加者の8割以上が東北大からで、部内杯かと思うほどであった。練習会を行ったというだけあって、きちんと取れる得点を取っているという印象を受けた。東北大に限らず、参加者全体のレベルが高く、正解率もほとんど9割前後であった。今回はぜひともAクラスに挑戦してほしい。

・運営準備などに関して

資料に関してはトレイルO協会のものを使用した。運営責任者が会長の田中氏であったことから、話はスムーズであった。地図や正解表、解説についてはコース設定者の高田氏とコントローラーの児玉氏に任せていたため、自分では初心者説明用資料とアンケートを準備した。（アンケート結果については後で触れます。）

当日の運営スタッフは、トレイルOの運営経験のある方がだいたいであったが、あまりトレイルOの競技経験のない方にもお手伝いいただいた。実際のところ、受付やスタート、フィニッシュの担当はフットOの運営とやることにさほど変わりはない。TC役員もやり方さえ覚えれば難しくはない。（第3回全日本トレイルO大会ではTC役員が地元の女子高生であった。）今後のトレイルO大会における当日運営スタッフの人選では、あまりトレイルOの競技経験にとらわれなくてもよいと思われる。（ただし、フォローはしっかりと。）

・その他

表彰式の段取り（特にセリフの部分）をもっとちゃんとしておくべきだった。表彰式の担当を割り当てておくのが望ましい。

参加者がAクラスで96人、Bクラスで26人もエントリーをしていただいたにも関わらず、大会としては赤字となった。主な原因はやはり自分がこの大会に主要な役割として関わったこと自体にある。そもそも袋井（静岡県西部）と矢板を何回も往復するものではない。なるべくトレインの近くに住む人材を起用できるのがよい。今回かかった交通費はかなりのものであった。

アンケート結果

昨年、今年と競技後の参加者にアンケートをお願いした。

・楽しめましたか？

全般的に楽しめたという方のほうが多かったようである。この声は運営者の支えになるもので、とてもありがたいことである。（またがんばります。）

・参加費は？

高いという方もいれば安いという方もいたが、普通と答えた方が多かった。社会人の方やトレイルO運営経験のある方などは比較的安いという意見を、学生は少し高いという意見をいただいた。

・コースについて

各項目それぞれ該当するコントロールに○をつけてもらう形をとった。

おもしろかったというところは各参加者思いのところに○がついた。

易しかった・難しかったというところはおおむね設定者が想定した通りの傾向が出ていた。

正解が納得いかないというところは、やはり正解率の低い難問や、あいまいになりやすい特徴物（植生界や等高線）の課題に多かった。

・インカレのいち種目としてのトレイルOについて

昨年のアンケートでは「インカレとしてのトレイルOを開催してほしいか？」という問いに、肯定・中立の立場の回答が約半々であった。（否定票も1票あった。）この質問の仕方だと、「今回（昨年度愛知で開かれた）のようにインカレ併設のトレイルO大会を今後開いてほしいか？」というニュアンスでも受け取れるので、「インカレのいち種目としてのトレイルOを開催してほしい」という意見かどうか判断できない。そこで今年は、来年以降、（ミドルやロングなどと同様に）インカレのいち種目としてトレイルOを開催してほしいと思いますか？（運営形態は現状とあまり変わらないかと思いますが・・・）という質問の仕方にした。

結果、

開催してほしい：22

どちらでもいい：4

開催してほしくない：0

無回答：4

となった。ただ、東北大生の「開催してほしい」という意見が結構な割合を占めており、インカレのいち種目としてのトレイルOを開催するとしたら、もっと学連全体の意見（了解）を得なければならぬ。トレイルOの認知度にもかなり地域差が出てしまっていることがうかがえた。

・Aクラスのテープ誘導について（今回）

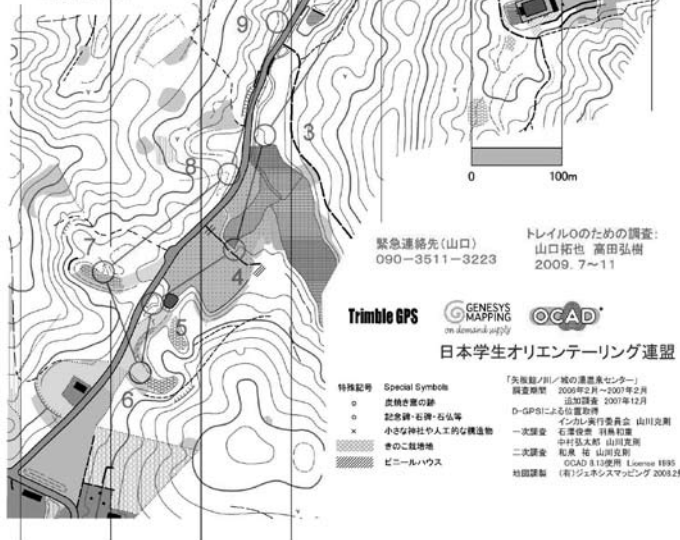
トレイルO大会では会場付近にスタート、フィニッシュがあることが多く、徒歩誘導があることは少ない。しかし、誘導が（徒歩25分も）あったことに関して否定的な意見は想像していたより少なく、どちらかというと「見やすく（わかりやすく）してほしい」という意見のほうが多かった。

矢板幸岡

オリエンテーリング矢板2009
秋の3日間大会
トレイルオリエンテーリング
2009年11月21日(土)

A	1.4 km	30 m
1 A-D		
2 A-E		
3 A-D		
4 A-C		
5 A-E		
6 A-E		
7 A-E		
8 A-E		
9 A-E		
10 A-E		
11 A-E		

競技時間 70分



1 A-E 2 A-D



縮尺 1:4000 等高線間隔 5m

オリエンテーリング矢板2009秋の3日間大会トレイルオリエンテーリング 2009年11月21日(土)

- 土崖、北東の終わり (B)
BCDのフラッグが土崖にあり、Aは東にある通行不能崖の西の終わりにある。
- テラス、西の部分 (B)
DPからはBが一番高く見えるので一番奥にあるかと錯覚しそうになるが、左右に動いてフラッグの動きを見るとABがテラス上にあり、Bが手前にあることがわかる。CDEは傾斜の急なところであり、テラスとの傾斜変換を主張している。
- 小川、東のふち (C)
小川をBの曲がりからDの南の曲がりまでで三等分した点がCDであり、丸の中心はCの位置にある。
- 小川、曲がり (Z)
面倒くさがらずに近くまで行けばZであることは容易にわかる。
- 沢 (C)
BCDが正解の沢線上にあり、ACEが同じ高さにある。南西に伸びる尾根が描かれていることを考えると地図の等高線はBまでは高くない。逆にDは道よりも低く、その高さで等高線を描こうとすると地図のように閉じた等高線にはならない。素直にCが正解。
- オープン、南東の部分 (B)
正解表にあるように丸の中心は二つの線の交点にある。一つは植生界の奥の角と水系の曲がりをつなぐ線。もう一つは植生界の奥の角と手前のハッチの角をつなぐ線。
- 尾根 (Z)
全て手前の尾根周辺にフラッグがある。丸の中心と湿地との位置関係を見ると、丸のある尾根は湿地の奥にあり、現地からは全く見られない。
- 植生界、東の角 (外側) (D)
手前の太い木と奥の細い木の植生界になっている。ACEは太い木の手前にあり植生界よりかなり外。木の上のほうは太い木の枝先が張り出してきてはいるが、Bは植生界の内側にある。
- テラス、東の部分 (E)
テラスの東に張り出している部分をコンパスを使って確かめる。フラッグ群の北の沢との位置関係からもEとわかる。
- 尾根 (E)
丸の北側の長い尾根が描かれているのでAやDの高さに等高線は描けない。逆に低くしすぎると丸の尾根が描けなくなる。丸の中心の乗った補助等高線がどの高さを描いているかを考える。ちなみにDPから左に動く地形が比較的是っきり見えるが、右に動くとのっぺりとして見えてしまい尾根がわからなくなる。
- 人工的な構造物 (貯水槽)、北東側 (D)
この水槽は4つの角が東西南北で、正解の北東は辺にあたるので、ある種の先入観とのイメージがずれる。そのことに注意すれば落ち着いてコンパスを振れば正解が導ける。

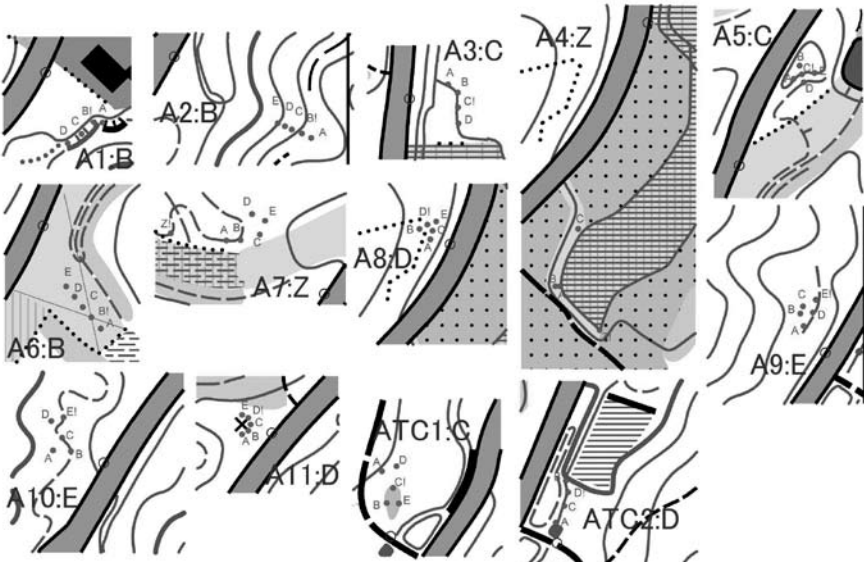
TC1. オープン、南の部分 (C)

南向きのコントロールなのでまず位置説明に注意。地面を見ているとDのあたりまでオープンかと思ってしまうそうだが、上を見上げればCまでがオープンであるとわかる。また、ADは距離感からも遠い。

TC2. 小川、東のふち (D)

丸の中心は曲がりがある。Bは湿地との位置関係からも丸より奥にあるとわかる。

Aクラス正解表



イベントアドバイザー報告

日本学連技術委員会 櫻本 信一郎

◆はじめに

インカレロングへ参加した皆様、運営した皆様、お疲れ様でした。皆様のおかげで今年度のインカレロングも無事に終了することができました。参加者、運営者それぞれの立場から今年度のインカレロングを経験することで何か1つでも心に残るものができたら幸いです。

イベント・アドバイザーとは、インカレが日本学生オリエンテーリング選手権実施規則（以下、「実施規則」と述べます。）に則って適正に開催されるよう第三者視点でチェックを行うものです。私なりに解釈をすると、一般大会でのコントローラとほぼ同様の役割を担う立場だと思います。

では、以下より今年度のインカレロングについて振り返っていきます。

◆開催地の変更

今年度のインカレロングは当初、矢板とは違う地域で開催される予定となっていました。私自身、イベント・アドバイザーに任命されたのが夏の終わりであったため詳細については存じていませんが、インカレロング開催日の半年前（4～5月？）程度に急遽テレインを矢板へ変更することとなったようです。実施規則から推測すると、インカレに使用されるテレインは要項1が発出される11ヶ月前までに決定している必要があると考えられます。よって、インカレロング開催の半年前にテレインを変更することは、運営準備に必要な時間や労力を十分確保できないリスクを抱えることになります。

また、今年度はテレイン変更に伴って運営主幹を変更せざるを得なく、かつ、それを引き受けてくれる方がいなかったようです。そのため、ジェネシスマッピング社にインカレロングの運営主幹を頼らざるを得なくなったと伺いました。ジェネシスマッピング社自身インカレロング運営を引き受ける前から裁ききれない量の運営（CC7、全日本スプリント、全日本リレー）を抱えている状態だったため、それらの運営に加えてインカレロング運営を任せることはインカレロングが適切に開催できるかどうかの不安が生じる結果となりました。（もっとも、ジェネシスマッピング社が運営主幹を名乗り出なかった場合、インカレロングが中止となったかもしれませんが・・・）今年度のテレイン変更はやむを得ない事情によるものと考えられますが、今後はこのような事態が発生しないようテレイン選定、運営主幹の決定を行う、もしくは、事前の準備を短期間でできるよう運営の仕組みを変える必要があると感じました。

◆事前準備

前述した通り、テレインの変更を受けて準備に十分な時間が確保できないことから、今年は2005年の全日本大会のテレイン「前高原」をインカレロングにて使用することとなりました。矢板では大会開催の実績が多々あるため渉外が行いやすかったこと、地図も比較的新しいため修正調査に時間がかからない等、事前準備を削減する観点からは適切な選択だと感じました。

しかし、10月下旬に1回目の試走を行った際、地図を大幅に修正する必要が生じました。よって、当初の思惑とは異なり修正調査に多大な時間がかかり、事前準備のボリュームが膨らんでしまいました。インカレロングの準備は実行委員長である山川さん（ジェネシスマッピング社）の都合により全日本スプリント、全日本リレーが終わった11月上旬から本格的に動き出しました。本格始動してからは着々と準備は進んで行きましたが、インカレロング当日まで準備が間に合わないかもしれないという不安は常に付きまといました。地図の修正調査以外で特に気になった点としては以下が挙げられます。

①要項3（プログラム）発行の遅れ

②運営者不足

③インカレロング当日に競技用地図が完成

①要項3（プログラム）発行の遅れ

競技規則より要項3はインカレ開催日の2週間前に発行しなければなりません。ですが、今回のインカレロングでは11/17と開催日の5日前にWebで発行（公開）されました（要項3のプレリリース版でも11/11公開と開催日の11日前です）。この事に関して学生側より苦情、謝罪の要求がきたようですが、運営側は適切な対応を行ったとは言えないものでした。私自身、そのやりとりの一部を見ましたが、当事者間で意識違いをしているのか運営側は論点がズレた回答をしていた印象を受けました。ここは運営側が素直に非を認め、謝罪や今後の対応を回答すべきだったのではないかと感じます。

一方、謝罪をすればそれで済むという単純な問題では無いことも学生側は意識する必要があると考えます。1つに、今回このような事態（やむを得ない事情によりテレインが変更、インカレロング以外に運営を抱えたジェネシスマッピング社が運営主幹をやらざるを得ない等）となった背景をどのぐらいの学生が知っていたのでしょうか？幹事長等の幹部クラスだけでなく全ての学生まで知っていたのでしょうか？また、インカレ運営にかけられる資金、時間、労力が減少する中、今まで通りの質を要求しているのではないのでしょうか？この点に関してはインカレの今後のあり方と合わせて私の考えを後述します。

②運営者不足

今回のインカレロングの運営者のほとんどは、ジェネシスマッピング社を除くと同年度に開催されるインカレミドル・リレーの運営者で構成されていました。また、運営者の人数も思うように集まらず、インカレロング開催日の1週間前でさえ運営者の勧誘を行っていました。

原因として1つ目には、現役を退いたOBやOGでインカレ、ましてやオリエンテーリングに関わる人が少ないということが考えられます。その結果、運営に携われる人が減少し、同じ人が何回もインカレの運営を行わざるを得ない状況となってしまいました。どのように対処を行うかは色々な面で話し合われていますが、現役を卒業してもインカレ運営に少しでも協力してくれたらと思います。

2つ目には、事前準備の見積もりが甘かった事が言えます。インカレロング当日の運営をどのように行うのか、実行委員長以外の運営者は開催日10日前まで誰も知りませんでした。よって、どのパートに何人必要なかも分からず、運営者が足りているのかどうか分からない状態でした。

3つ目には、OBやOGの耳に運営の話が届いていない事もあげられます。OBやOGの人で「インカレを運営しても良いと思ったが、連絡がない、募集していることすら分からない」といった声も過去にあったようです。現役生側で自分の大学のOBやOGに対してインカレ運営を呼びかける等、インカレ運営に参加しやすい仕組みを考える必要もあると思います。

③インカレロング当日に競技用地図が完成

「事前準備」にも述べた通りインカレロング開催日の1ヶ月前になって地図の修正調査が想定よりもかなり大きくなっていることが判明しました。そのため、インカレロング前日まで修正調査が行われ、それが完了してから競技用地図の印刷、防水加工（地図ビニ封入）を行いました。競技用地図の作成が完了したのは開催日の午前4:00ごろであり、その後、配布用ディスクリプションの印刷を開始しました。その結果、当日に一部のクラスにて、地図に印刷されているディスクリプションと配布用ディスクリプションが異なっているという不祥事を招いてしまいました。地図や配布用ディスクリプションの最終チェックは私が行わなければなりませんでしたが、後者のチェックを怠ってしまいました。理由として、競技用地図をチェックして問題が無かったこと。配布用ディスクリプションには競技用地図を印刷したものと同一OCADデータを使用するため間違いが混入するはずがないと思っていたこと。競技用地図のチェック終了後、かなり疲弊してしまい精神的に追い詰められていたこと。が挙げられます。原因として、競技用地図と配布用ディスクリプションで異なるOCADデータを使用していたようですが、私がしっかりと責務を果たしていれば水際で防げた事象でした。インカレロングでは競技不成立とはせずに処理してしまいましたが、該当クラスの参加者を始め、オフィシャルや応援に来ていただいた大学関係者の皆様にはご迷惑をおかけしました。大変申し訳ありません。

①～③のような事態に陥った背景として、実行委員長が運営責任者や渉外、地図調査、プログラム作成などキーとなる役職を背負い込み過ぎていたこと、インカレ運営経験が豊富な事による「なんとかなるだろう」という過信があったと考えられます。インカレロング開催日に向けてのスケジュールや事前準備の量をしっかりと計画、把握できていなかったため、準備がギリギリになってしまい、競技本番で不祥事を起こしてしまう結果となりました。

今後このような事を繰り返さないよう、本格的に運営が動き始めた時点で全体のスケジュールや行うべき準備を実行委員長が運営者へ情報共有し、必要に応じて役職や仕事の分担を実施できればと思います。

◆当日の運営

ここでは、インカレロング当日の運営について振り返りたいと思います。

今回の運営では運営慣れた人が多く、大会の運行に大きな支障が出ることもなかったため、準備期間の割には上手く立ち回れていたと思います。また、パートによっては熟練した人が経験の浅い人に運営ノウハウを伝える等、若い世代へとパート業務を引継いでいく光景もありました。インカレを継続的に開催していく上で運営ノウハウの引継ぎは必要だと思いますので、今後もこの光景が続くようパートが編成できればと思います。

ただ、受付、本部は許容できない事柄がありました。1つは、一般参加者の方が一般参加者受付開始時刻より前に受付へ訪れた時、とある責任者が「学生優先。一般参加者は後回しなので追い返せ。」という内容の暴言を大声でしゃべっていたことです。大会準備で追い詰められていたとはいえ、さすがに言いすぎだと感じました。特

に受付は参加者に目立つパートの1つであるため、この発言でインカレに悪い印象を持つ人が増えないか心配になります。

もう1つは、調査依頼に対する対応です。既に述べたディスクリプションの間違いの他、何件か調査依頼が本部へと提出されました。その回答を行うのは主管者(運営者。今回に関して言えば競技面での調査依頼であったため競技責任者が適当と思われます。)ですが、実際は併設大会のコントローラや私に丸投げをしていました。これは主管者が自身の責務を放棄したとみなされ、実施規則に違反する内容と言えます。今後このような事が起こらぬよう主管者(特に責任者)は実施規則をきちんと頭に入れて運営を行って欲しいと思います。

◆ウイニングタイム

ここではウイニングタイムについての考察を述べます。

今回のインカレロングにおけるウイニングタイムは下表の通りとなりました。

	男子	女子
規則	70' 00 ~ 80' 00	55' 00 ~ 65' 00
要項3	80' 00	65' 00
結果	79' 12 (99%)	61' 53 (95.2%)

表からも分かる通り、男女とも要項3にて開示されたウイニングタイムに近いものとなりました。

今回はインカレロングとその翌日の公認ミドル大会で同じ地図を使うことになっており、インカレロングの競技エリアが制限されていました。そのため、コース設定に制約があったものの、ロング競技の要件(広域のルート選択を含む重大なルート選択がある。体力や持久力とペース配分の判断力を要求される。等※)を満たした適切なコースが設定できたと思います。

※「競技規則および関連規程等の運用に関するガイドライン」の付表2を抜粋

◆インカレのあり方

インカレのあり方については、過去の報告書や学連総会にて色々意見が寄せられていますが、今回の経験を踏まえ私なりに感じた事を述べます。

まず、インカレは実施規則に則って開催されます。毎回のインカレが実施規則に書かれている全ての事項を満たせば良いのですが、テレインの制約や運営の都合により一部不適用とせざるを得ない事も多々あります。この不適用事項が生じた場合、技術委員会の諮問、理事会の承認が必要となります。最近のインカレより感じることは、競技に関する部分だけは上述の手続きを行っているのですが、それ以外の部分(例えば、チームオフィシャル登録要件、要項発表の時期など)は上述の手続きを行っていません。つまり、コース等の競技面さえよければ事務手続き等のその他の面はどうでも良いという印象を受けます。もちろん、インカレは競技大会であるため競技面が大切なのは重々承知していますが、そうだと言って競技面以外の部分をなおざりにしていいものではありません。競技面もそれ以外の部分も含めてインカレだと私は認識しているため、今後の運営では気をつけていただきたいと思います。

次に、運営準備はもっとスリム化をした方がよいと思います。参加者や運営者の人数が減る中で、昔と同じスタイルでインカレを開くのは非効率だと考えます。現状、運営者だけでインカレの全てを準備するのは時間的にも労力的にも厳しいです。よって、参加される学生には申し訳ないのですが、競技に関わらない部分については準備に協力して欲しいと思います。一例を挙げると、演出(速報ボードの作成等)は競技に関する部分ではないので学生側が行えば、運営側の負担は減ると感じます。そして、その負担が減った部分を別の作業(要項や地図の作成)に費やせば全体として効率的な準備ができると考えています。運営者の負担が減れば運営の協力を申し出てくれる人が増えるかもしれません。今と昔ではインカレの規模や学生の考えも異なっているはずですが、「インカレとはこうあるべき。」「インカレを昔はこうやっていた。」等、昔のやり方に固執してしまうため、インカレの準備に無駄が生じているのではないのでしょうか?時代の流れとともに状況は変化しているため、運営のやり方についても変化させていく必要があると感じます。

インカレ最盛期だった頃を幻想として抱き、それに基づいて準備するのは現況にそぐわないと思います。これから最盛期だったころのイメージでインカレを運営するならば、運営者に多大な負担がかかり、準備に不備が生じてしまい、その結果、学生側にとっても不満の残るインカレとなってしまう可能性があります。できそうにない部分は思い切って切り捨て、身の丈にあったインカレを開催していくべきだと思います。

今回のインカレロング運営で、とある運営者が言っていた台詞が印象に残りましたので以下に載せます。現状の運営者の気持ちをうまく表現しているなと思いました。が、気分を悪くされたら申し訳ありません。「こんなに時間を割いてインカレを準備しているのに、運営主幹から無茶振りがきて、学生からはクレームが寄せられるなんて、ウチラ(有志の運営者)は完全に板挟みだね。こんな状態が続くならばインカレの運営なんかもうやりたくないな。」

入賞おめでとう&更なる飛翔を!!

入賞者 & エリート出走者

WUE

第3位 田村蓉子(30期)

MUE

第9位 古谷嵩(29期)

第45位 大嶋拓実(31期)

MUF1

第5位 曾原直也(32期)

MUL1

第3位 新城大樹(30期)

楠恵輔(31期)

MUL2

第2位 高野圭司(30期)



東工大OLT OB・OG会 つばめ会

将来への提言

実行委員長 山川 克則

【大前提】

インカレは学連加盟員全員がそれに向かってモチベーションを高め、切磋琢磨する最大の機会である。種目はロング・ミドル・リレーの3つ。この3試合は、“あらゆる困難を乗り越えてでも”開催し続けなければならない。また、用意される地図・コースは、向けて努力してきた選手を不幸な要因で裏切ることにならないようこの世界で最高水準のものが提供され続けなければならない。以上の理念は、幹事会・理事会で何度となく議論され、また過去の報告書でも歴代の実行委員長の口から、提言としてシェアされてきたことであります。これを元にインカレに関わるもの全員が、インカレの継続性について考えて自分のできることをしていく。それが学連のあるべき姿だと思います。

本稿の題名は規則にも明記されている通り「提言」なのですが、「提言」というには、長いこと中枢部にに関わり過ぎて人間、つまり提言される側の者が直接実行委員長に就いた回でもありますので、いろいろ周辺状況を整理しながら、より多くの人により多くの側面からインカレの継続性について考えてゆける文章を残しておこうと思います。

【インカレの使命感】＝オリエンテーリング存続の生命線、いやより正確には“生命泉”？

ここ数年の報告書で指摘されているように、競技人口が下げ止まらず何時なくなってしまうところまで状況は悪化していますが、関係者のためむ事の無い努力で踏ん張っているという状態が続いています。インカレがなくても競技オリエンテーリングを続けるモチベーションを保てる人はいるでしょう。

しかし、それはさらにごく少数。とてもこの世界を支えきれだけのバックボーンとはなりません。インカレが終われば、我が国の競技オリエンテーリングそのものがなくなってしまう。それが正しい認識だと思います。この供給の泉はどんな手段を講じても絶やしてはいけません。関係者がこの障害を乗り越える原動力は継続することがもっとも重要な価値であるという使命感からではないでしょうか。そしてインカレの日には、選手達がこの灯を絶やしてはならないという熱い気持ちを表現し続けてくれる。このサイクルが成立しているうちは踏ん張っていけるのだと思っています。

【そもそもオリエンテーリングで“面白い”“スポーツ”だよ？】

あなたは、何故オリエンテーリングに引き込まれましたか？“面白いから？”“遊び？”“スポーツ？”いや、“真剣な遊び”かもね。スポーツって、どれも真剣な遊びじゃない？この種目に根源的な面白さが有る限り、存続できる要因は本来的に持ち合わせている、このことは確かに言えると思います。森の中でのナビゲーションとして、オリエンテーリングは究極のものだと思います。なのであまり危険なところでは成立しえず、里山が舞台となる。渉外の問題も立ちはだかる。究極故に、地図準備も運営準備も、ここまでめんどくさい種目はそうそう他には無いですね。そこがまた面白さなのかもしれないですが。卒業しても、オリエンテーリングを続ける？何割かの人は、これでサヨナラ。それは仕方のないことだと思います。しかし、オリエンテーリングが面白いと思う何割かの人によって、インカレの提供を今まで継続してきました。そして、これもここ数年何度も繰り返しシェアされたことですが、参加者数の減少、それがひいては運営者の確保と言う問題で立ちはだかっているわけですね。

【種目ごとにさらに詳しく掘り下げ、今年の改革点、今後の展望、“困難性”、“継続性”をみてみよう】

〔ミドル〕 予選・決勝方式から、決勝1本方式に本年度から 準備工数削減優勝設定を国際基準に適合化 Bファイナルの扱い方、モチベーションとの整合性は今後も課題

〔リレー〕 2走で短いボタンを今年から採用。メンバー構成により柔軟性を持たせて、参加しやすく戦略性アップ、評価は今年の結果をみて

〔スプリント〕モチベーションの点で他種目ほどの評価に至らず、インカレ正式種目の採用を本年度見送り、当面“学生の部”として、全日本と共催で継続の模索 全日本スプリントが必ず開かれるのかと言う点で、JOAのleadに不安面大、但しシニアと学生が同じ土俵で競える機会を提供していくことには高評価、さらには高校生もこの同じ土俵に入れられるのも高評価。（安全性が確保された種目であるのが大きい）

〔トレイルO〕 別掲 山口くんの原稿を参照下さい。

〔ロング〕 テレインの必要面積、それに対するコストが大 対策としてコラボ路線2マップやバタフライループの採用も解決手段のひとつ 2010年度は地域クラブとの共催が決定済（大阪 OLC35 周年記念行事とコラボ）

しかし、毎年この環境を提供できるわけではない。過去の財産利用（例：神奈川全日本とのコラボ）なども含め当面模索していくことになる。

【実行委員会組織化の問題】

ミドル・リレーでは卒業まもないOB・OGの手によって、経験を積みながら、先輩に色々教わりながら実行委員会を“組織化”することによって、役員リソースという継続性を確保しています。ロングにおいても、そういう年もありますが、それが適わない年は（今年に限らず）専門化集団の力に頼ることになっています。また、地域クラブの活力に頼る方式も（来年のロングのように、また一部部門だけなら過去にも有）検討されていくことでしょう。問題なのは、運営役員の供給（泉）という観点で若手OBの実行委員会組織化が今後も続けていけるか？という点です。

特に地盤沈下の激しい関西地区では深刻な問題として直面していると思われます。その中で来年のインカレロング関西が、地域クラブとのコラボ方式で開催されようとしています。ロングでは実行委員会の組織化をあきらめても、ミドル&リレーでは、何としても運営するOBの供給を絶やしてはならない。この思いは、まだ何とか維持できている、そして新たに卒業する人たちにも、学生の時インカレで楽しんだ分位は、OBになったらお返しする。その気持ちでインカレを続けていって欲しいと思います。

本年のロングに関してはまさに異例でした。今まで、このような場面で矢面にたっていたきてきた木村担当理事も、今年の状況で実行委員長をしていただくのは、さすがに一般サラリーマンをここまで巻き込むのは気の毒で気が引けたというか、激務すぎて任務に耐え切れなだろうと判断しました。今年は自分が直接立つしかない・・・無茶を承知で行う分、批判も浴びるだろうが、それは覚悟の上でした。幹事会では、最短で意思決定を行わないと、インカレを開催できないところまで来ているので自分が立った、と言う説明を行いました。こんな異例の実行委員長を立てることの無い様、ちゃんと若手の運営者によって、インカレを継続して欲しいと思います。

インカレロング
全コントロール&コースパターン一覧

▷ S1					
▷ S2					
▷ S3					
49					
50					
51					
52					
54					
55					
56					
57					
58					
59					
60					
61					
62					
71					
72					

73					
74					
75					
76					
77					
78					
79					
80					
81					
82					
83					
84					
91					
92					
93					
94					
95					
96					

97					
100					
101					
102					
103					
104					
105					
106					
107					
108					
109					
110					
111					
112					
113					
115					
116					
117					

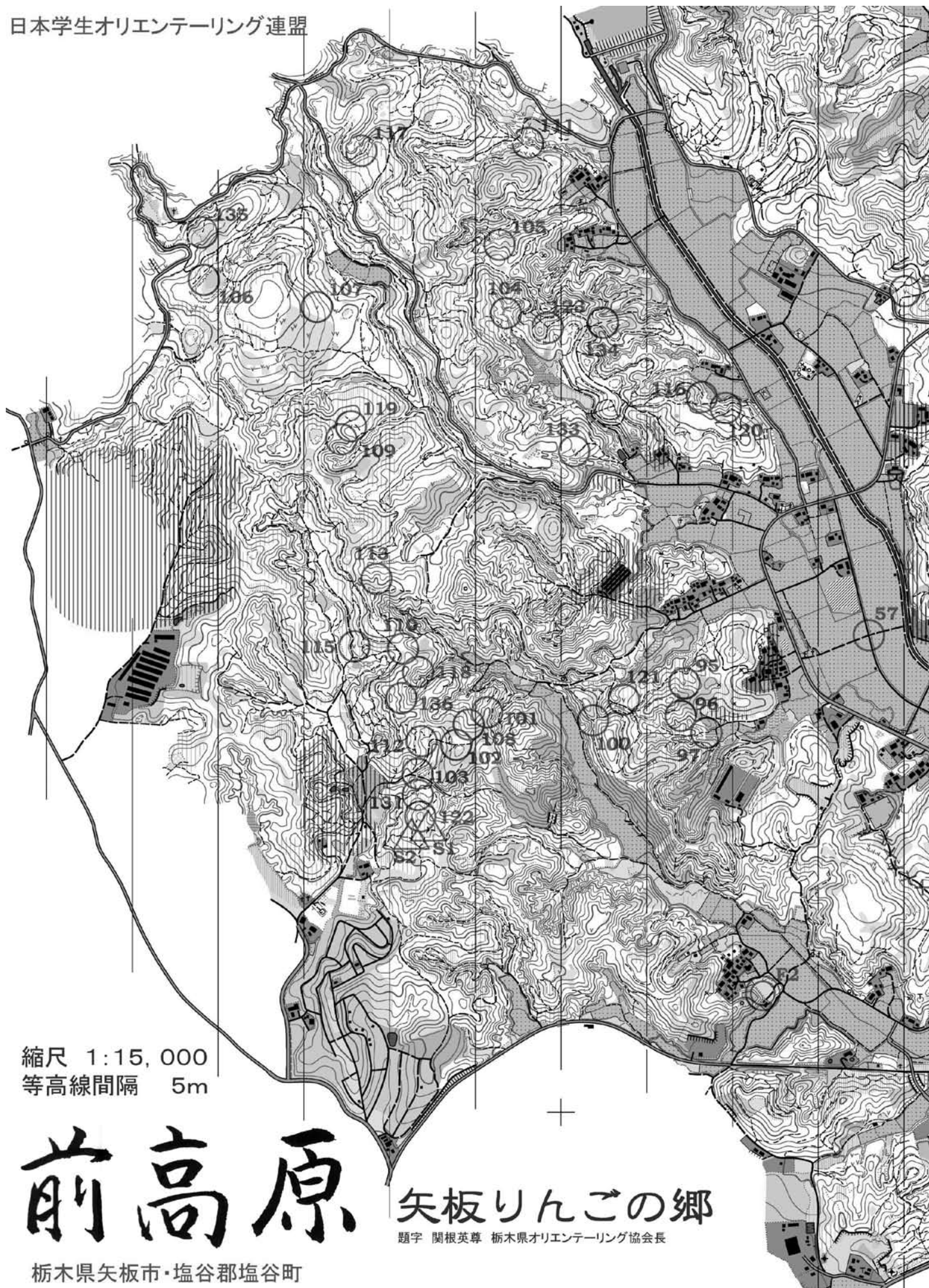
118					
119					
120					
121					
122					
123					
131					
133					
134					
135					
136					
140					
144					
145					
160					
175					

All Controls 67

All Controls 67

[illegible]

日本学生オリエンテーリング連盟



縮尺 1:15,000
等高線間隔 5m

前高原

矢板りんごの郷

題字 関根英尊 栃木県オリエンテーリング協会長

栃木県矢板市・塩谷郡塩谷町



全コントロール 67

2009年度日本学生
オリエンテーリング
選手権大会
ロング・ディスタンス
競技部門

開催日
2009年11月22日(日)

緊急連絡先
山川携帯
090-8041-4673

|||||||
立入禁止

Special Symbols 特殊記号

- 炭焼き窯の跡
- × 小さな神社や石仏
山中の廃車
- 特に目立つ独立樹
- 石碑
- フィールドアスレ
チックの遊具

きのこ栽培地
ビニールハウス

GENESYS
MAPPING
on demand supply

前高原 Mae Takahara
基礎原図 矢板市地形図 2500分の1
塩谷町地形図 10000分の1
D-GPSによる位置取得 2005.5~2006.2
和泉 祐 Yu Izumi
山川克則 Katsunori Yamakawa
経年修正 2009.11 山川克則

調査・作図 2005.9~2006.3
和泉 祐 Yu Izumi
中村弘太郎 Kotaro Nakamura
山川克則 Katsunori Yamakawa
地図調製
(有)ジェネシスマッピング 2009.11発行
要部修正 2007.2.8 2009.11



2009 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス競技部門 報告書

2010 年 3 月 12 日発行

発 行 所 日本学生オリエンテーリング連盟
 〒 112-0014 東京都文京区関口 3-18-2 目白台芙蓉ハイツ 104
 TEL/FAX 050-2012-4825
 ウェブサイト <http://www.orienteering.com/~uofj/index.html>

発行責任者 2009 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス部門実行委員会
 実行委員長 山川克則

編集・製作 有限会社ジェネシスマッピング

注：本文中の文言・表現は各執筆者の原稿をそのまま掲載しています。